



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	座長解題(問題提起)(1992年度秋季大会シンポジウム「新農政改革と北海道農業の進路-担い手像と地域支援システムをめぐって」)
Author(s)	臼井, 晋
Citation	北海道農業経済研究, 3(1), 1
Issue Date	1993-10-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/62899
Type	journal article
File Information	KJ00009064881.pdf



共通論題「新農政改革と北海道農業の進路 —担い手像と地域支援システムをめぐって—

座 長 解 題 (問題提起)

臼 井 晋*

92年6月に政府から発表された、いわゆる「新農政プラン」については、その後、その紹介や解説を含めてさまざまな立場からの論議が活発となっている。

プランのなかで、その中心的論点の一つは、今後どのような農業の担い手像をイメージし、期待するのか、にある。

本シンポジウムでは点としての担い手と、それを包み込んだ面としての地域とを結ぶ論理を探求することを共通の課題として設定することにした。

今日の段階においては各地域において多様な担い手の姿が見られるようになった。しかし、多様な展開のなかで共通している事態は、担い手が独力で自己完結的な経営を完成させる方向ではなく、地域との結び付きのなかでこそ自己の発展が保証されていることである。こうした担い手と地域との関係を解明し、担い手の発展を伸ばすための「地域支援システム」のありかたについての論理と実践方向を明確にすることが求められている。こうした課題の解明は、地域の条件に応じて多様な展開をみせている北海道の農業にとってはとりわけ重要だと考えられる。そしてこれまで理論の面でも実態分析の面でもかなりの蓄積が積み重ねられてきた。しかし、それぞれの切り口（視角、方法）に差異があるために、必ずしも共通した認識や整理が進んでいるとは言い切れない状況にあ

ると思われる。

本シンポジウムでは、上記の課題にそれぞれの立場から接近していただくために、3人の方に報告をお願いし、次いで4人のコメンターの各位には、報告に対する質問、コメントをお願いするだけでなく、それぞれ専門の立場から本テーマに対して自由に問題提起をしていただいて討論の材料を豊富にする、という設定にした。そして報告者、コメンターともに出来るだけ若手の方々をお願いして、思い切った大胆な提起を期待することにした。

第一報告では、担い手と地域との接点について、どのような組織化の理論が考えられるか、理論的な視角を中心にした提起を、浅見さん（帯広畜産大）をお願いした。第二報告では、酪農における粗飼料生産の受委託の展開条件を材料として課題に迫っていただくことを、浦谷さん（道立根釧農試）をお願いした。第三報告では、十勝の事例にもとづいて、経営の革新に果たす地域組織の役割を理論化した提起を、志賀さん（北海道大学）をお願いした。

勿論、短時間の論議でどこまで問題を煮詰め、整理が出来るか、いささか不安もあるが、本シンポジウムが学会員各位の研究にとって、また北海道農業の進路を切り開くために、大きなプラスとなることを期待したい。

*北海道大学